

すし、そろそろこの宇宙船の本格的なメンテナンスをすべき時期に来ているのではないかと思います。

(3) 次世代の情緒育成

ここで話しは飛びますが、21世紀を考えたとき、それを担う子供達の意識や感覚等が問題となります。それで私は本日の講演のレジメに「小学生のイモ掘り」ということを書いておきました。最近都会を中心に犯罪、それも事件の加害者が低年齢化しています。その要因の一つに子供達の情緒不安定が挙げられています。

コンクリートとアスファルトで土から隔絶した緑や動物の鳴き声に接する機会の少ない環境の中で生活し、テレビやゲームのバーチャル・リアリティーの世界に浸っていたら、おのずとストレスがたまり、情緒不安定になるのも無理からぬことと思います。

これは十年程前、テレビのローカルニュースで見たのですが、千葉県のある小学校では各学年ごとにサツマイモ、ジャガイモ、イチゴ、イネ……というように、いろいろな作物

を栽培させ、収穫時にはその栽培を担当した学年が優先的に生産したものを食べてよい、という教育をしているそうです。そのようにすれば、落花生がソラ豆のように空中に実っているというような誤解もなくなりますし、作物の栽培を通して、作物はもとよりミミズやイモムシなどの生物の生態や自然を理解し、かつ生命の尊さを体得するよい機会にもなります。そして、情緒も安定していくわけです。

また、ドライブなどで父親がタバコの吸い殻やジュースの空き缶を道路わきの田や畑にポイ捨てしようとしたとき、これを見た子供が、「ここはお百姓さんが私達におコメや野菜を作ってくれているところだから……」と注意するかもしれません。

最近名古屋肥飼料検査所管内の愛知県では、イモ掘りや田植えとイネ刈りを小学生や生協の組合員である消費者たちに体験してもらうような試みをしているところが増えています。たしかにパフォーマンスの一種かもしれませんが、意外とあとから効果が出てくると私は信じております。

ジャガイモと映画『怒りの葡萄』

ジョン・フォード監督がスタインベックの作品を1940に映画化したもの。

ヘンリー・フォンドが演ずるトム・ジョードが仮出所となり、オクラホマに住む小作農の家族のもとに帰ってくる。仕事を求めて、おんぼろトラックに12人と家財を満載してカルフォルニアに向かう。

ニューメキシコの山岳地帯に入り、山間からコロラド川や「五彩の砂漠」を見下ろしたアリゾナ州境で植物検疫を仕事とする州の監視人に止められチェックされるが、『ノー・プランツ』と説得し、積み荷を降

ろすことを勘弁してもらう。続いて真夜中にさしかかったカルフォルニア州との境でも農事検問所で止められる。『具合の悪いばあさんがいる。早く医者のところにつれて行かなければならない』と、瀕死に見える顔の力を借りて乗り切ろうとする。係官は老婆に懐中電灯の光をあてて驚き、『種子も果物も野菜も持っていないと誓うな、とうもろこしも、オレンジも』と聞く。

アメリカでは当時から防除の難しい病害虫の、他州からの侵入に殊更注意を払っていたことがわかる。ジャガイモ自体の画像は出てこなかったが、示唆に富み、今にも通じる重要な映画であった。（浅間和夫）